

コムギ品種「ゆきちから」の赤かび病に対する第1回目の防除時期

古川農業試験場

1 取り上げた理由

本県では、これまでムギ類赤かび病に対する防除体系の中で、第1回目の防除時期を「出穂期から開花期」としていたが、コムギ品種「ゆきちから」においては、同時期を「開花期」とすることでより高い防除効果が得られることが明らかとなったので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 「ゆきちから」の赤かび病に対する感受性が最も高いのは開花期である（図3）。
- 2) 「ゆきちから」で1回防除を行った場合、最も高い防除効果が得られるのは開花期の防除である（図1, 2）。

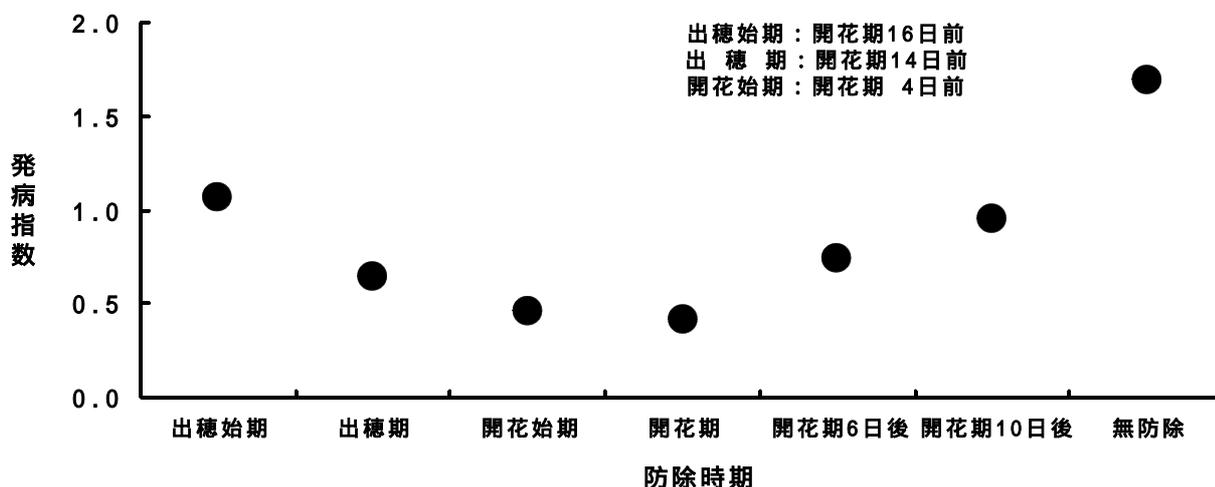


図1 防除時期別発病指数(ゆきちから)

注) 発病指数: 立毛での調査

3 利活用の留意点

- 1) 本試験はムギ品種「ゆきちから」およびファネートMFL水和剤を用いた、2005年の場内での結果である。
- 2) 本試験における開花期は、開花小穂率約30%（開花小穂率20%以上の穂率約65%）である。
- 3) 本試験における開花始期から開花期までの期間は4日程度（2005年、低温年）である。
- 4) 開花期の薬剤防除の目的は予防である。よって、開花期の防除効果を確実に得るため、薬剤散布が開花期よりも遅れないよう留意する。
- 5) 「ゆきちから」の防除回数については、乳熟期防除を加味した体系で別途試験が必要である。
- 6) 防除間隔（7日から10日）は厳守する。

（問い合わせ先：古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5108）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

ムギ類赤かび病回避のための防除技術の開発 (平成16~20年度)

2) 参考データ

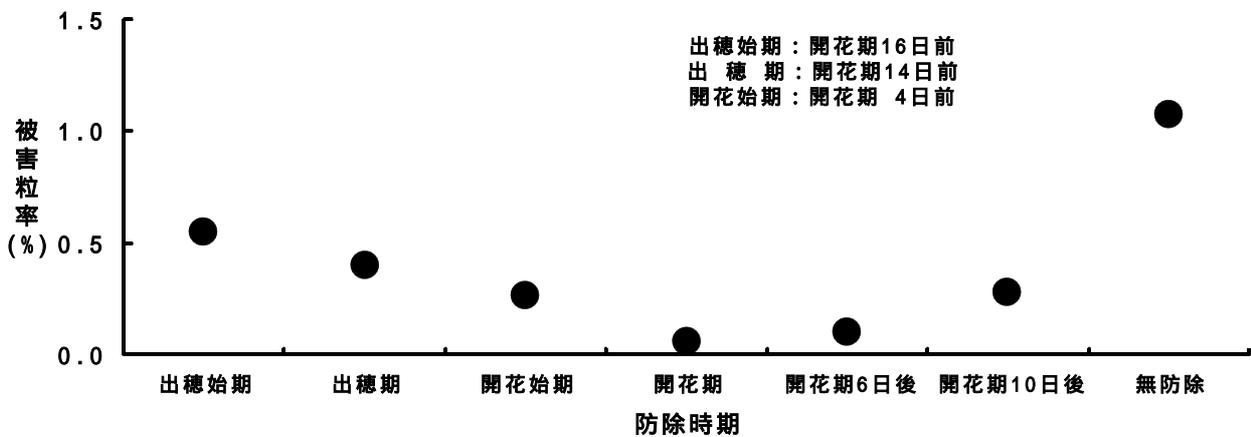


図2 防除時期別被害粒率 (ゆきちから)

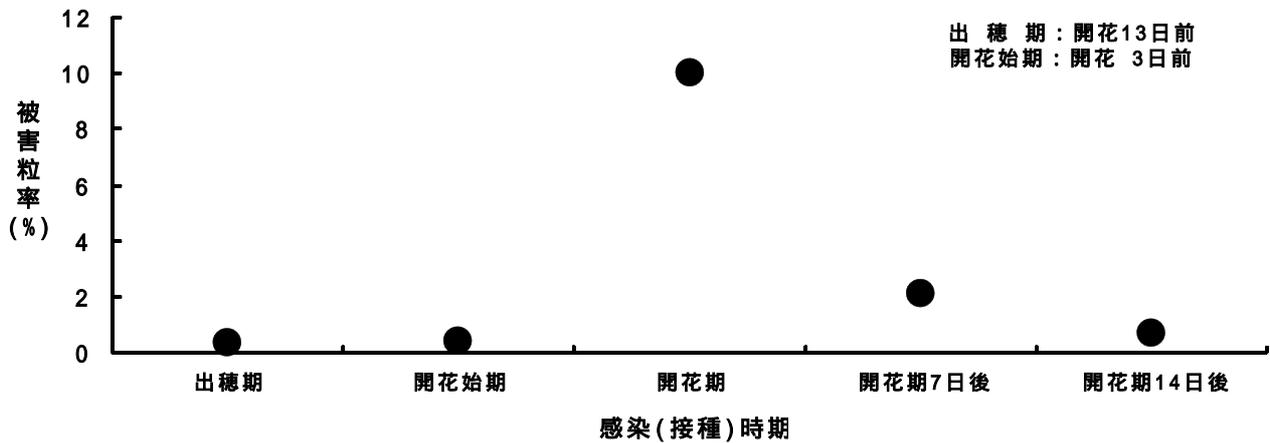


図3 感染時期別被害粒率 (ゆきちから)

3) 発表論文等

特になし